

新型コロナウイルス感染症 COVID-19 院長

今月号も新型コロナウイルス感染症で、これで3ヶ月連続になります。テレビをつければコロナ、コロナで埋め尽くされ、連日オーバーシュート、ロックダウンなど耳慣れない言葉が飛び交っています。3月29日に志村けんさんが亡くなるというショッキングなニュースが流れ、新型コロナウイルス感染症の影がさらに大きくなってきました。

日本では新型コロナウイルス感染症と呼ばれていますが、2020年2月に世界保健機関（WHO）により「COVID-19」（コヴィッド19）と命名されました。Coronavirusから「COVI」、Disease（疾病）から「D」を取り、発生年である2019年の「19」を付けたものです。

COVID-19は2019年12月に湖北省武漢市保健機関から、原因不明の肺炎患者として初めて報告されました。その後中国全土に感染が広がり、中国以外の国と地域に拡大。2020年1月WHOは「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」、3月11日には世界で感染者数が爆発的に増加し「パンデミック」を宣言しました。4月1日現在205の国と地域で、感染者75万人、死者3万6千人、国別ではアメリカ14万人、イタリア10万人、スペイン8万5千人と急増しています。ヨーロッパでは医療従事者の感染率が高く、さらに重症患者用病床、加えて人工呼吸器等の医療機器不足から、命の線引きをしなければならないような医療崩壊が起り、世界中に広がるのが危惧されています。

一方日本では、2020年1月16日に最初の患者が確認されて以降、感染者の増加に伴い2月1日に指定感染症となりました。その後も各地で広がりを見せ、2月28日北海道知事が外出自粛を中心とする「緊急事態宣言」、3月14日には新型インフルエンザ等対策特別措置法が施行されました。その後も大阪府、兵庫県、愛知県などで増加し、東京での急増を背景に3月25日知事は「感染爆発を抑止できるギリギリの局面だ」と述べ、改めて不要不急の外出を控えるなど感染を広げない行動をとるよう呼びかけました。4月1日現在日本における感染者数（クルーズ船を除く）は2,233人で、都道府県別では、東京521、大阪244、愛知178、北海道176、千葉171人の順です。特に東京では急速な増加を示しているだけでなく、クラスターと呼ばれる集団感染の拡大、感染経路を追えない感染者の増加、さらに若者の割合も急増し、オーバーシュートが起こる秒読みの段階になっています。

前置きが長くなりましたが、この記事を読んでいる方の一番の心配は、子どもが感染したらどうなるのかでしょう。小児に関するデータは少ないのですが、武漢小児病院でのデータを紹介します。COVID-19感染症または疑った人との接触があった1391人の小児のうち、171人（12.3%）で感染が確認されました。発症の平均年齢6.7歳。発熱は41.5%に認められ、その他の症状は咳と咽頭発赤でした。27人（15.8%）には症状はなく、12人（7.0%）はレントゲン所見のみで症状はありませんでした。3人（1.8

%）は集中治療室で人工呼吸器管理が必要でした。腸重積症を合併した10ヶ月児が1人（0.6%）死亡しましたが、子どもは大人とは対照的に軽症で無症候性感染も珍しくありませんでした。感染しても症状がないまたは軽い患者の存在は、進行中のパンデミックを防止する上での対策として重要と示されていました。（JAMA. Published online February 24, 2020）もう一つ「中国で感染した小児患者2143人の疫学的特徴」の報告があります。予後のところだけ紹介しますが、重症症例は1歳未満10.6%、1歳から5歳7.3%、6歳から10歳4.2%、11歳から15歳4.1%、16歳以上3.0%で、14歳男児1例が死亡しました。報告の重要なことは、重症化は年齢と逆比例して乳児では10%を超えていることです。乳児が重症化することに目を向け、小児は軽症という意識を見直さなければならぬかもしれません。（Pediatrics. 2020; doi: 10.1542/peds.2020-0702）

さて、子どもたちは一部重症化することはあっても軽症が多く死亡率は低いことが理解できたと思いますが、次は医療機関を受診する基準について考えてみましょう。2月に「新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の目安について」（厚労省）が示され、当てはまる場合には「帰国者・接触者相談センター」への相談が原則となることを再確認してください。しかしながら、目安のような症状は、子どもではごく当たり前にみられます。万が一疑わしい場合でも子どもは総じて軽症ですから、不要不急の受診を避けることが望ましく、不安があれば電話の上かかりつけを受診することが原則です。不要不急の判断が難しいことは理解していますが、基本的には次のように考えています。医療を受ける目的は重症な病気の早期発見、患者さんの辛さ苦しさ、生活への悪影響を取り除くことです。つまり症状が軽く生活への悪影響がなければ、家の中で症状の経過に注意を払いながら様子を見ることが基本となります。このようにCOVID-19の流行が拡大すると、不安も拡大して受診したくなる気持ちはわかります。でも、病院に行っても検査ができるものはなく、万が一陽性になっても治療法がないのです。心配して受診したら、同じ待合室にCOVID-19が紛れていて感染してしまったのでは、笑い話にもなりません。結局、保護者の不安や心配による受診が、つまり不要不急の受診なのかもしれません。

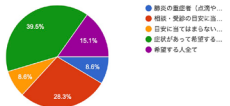
当クリニックではCOVID-19に関して3つのアンケート（一般、休校、PCR検査）を行いました。先月号のNEWSでも解説しましたが、アンケート結果・解説はブログ「こどもクリニック四方山話」（QR）を参考にしてください。PCR検査が保険収載されたことにより、誰でもどこでも検査できるものとの勘違いがあります。現状では何も変わらず、強い疑い例、濃厚接触者に限って、帰国者・接触者外来で実施するのが原則です。検査はある意味必要ですが、我々の考え方と一般の人の間にはギャップがあります。治療法がなくても心配だか



ら受けたという思いの方もたくさんいるようです。アンケートで「どんな人を対象にすべきですか」に、「希望する人全て」が15.1%ありました。気持ちわかるのですが、万が一陽性になれば指定感染症なので入院隔離が必要になります。さらには家族、仕事場の接触者まで影響が及びます。別な意味での問題は多くの軽症者によって入院病床が塞がり、重症例(20%)、集中治療室で人工呼吸器やECOMによる治療が必要な最重症例(5%)への対応に影響が出ることです。アンケートは単なる調査以外に、啓発目的もあります。前半の質問に「軽症者が多く、治療法ありません。それでも検査は必要と思いますか」がありました。その答えでは「必要」が71.1%でしたが、最後の質問では受けない(42.8%)と受ける(35.8%)より割合が多くなっています。この最後の質問がまさに目的とするところだと、皆さんもお分かりのことと思います。もちろんPCR検査を行うなど言うのではなく、疑わしい人にはしっかり検査するのが基本です。現在のPCR検査は感染拡大防止という意味合いより、重症者の命を守ることが目的です。

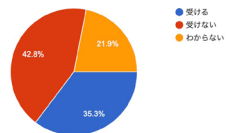
必要と答えた方にお聞きします。どんな人を対象にすればいいと思いますか

152件の回答



最後の質問です。アンケートにより少し理解できたかもしれません。あなたは軽症でもPCR検査を受けますか

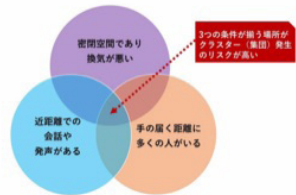
201件の回答



世界的中でパンデミックが止まることなく拡大し、新型コロナウイルスとの戦いは、正体が見えない敵との戦争のようなものです。今世界で起きてる悲劇的な状況が、日本でいつ起きてても不思議ではありません。さて私たちは、どのように行動したらいいのでしょうか。もちろんマスク、手洗いなど感染予防策が重要であることはいまでもありません。社会と接触の少ない子どもたちは、行動範囲が広い若者や大人たちから感染するのです。子どもたちを守る、家庭を守る、そして社会を守ることは、重症化のリスクが高い高齢者を守ることにつながるのです。このウイルスは、もう隣まで忍び寄ってきています。日本中で起きている感染の連鎖を止めることができるのは、この記事を読んであなた(若者や大人)なのです。東京都が要請しているように、不要不急の外出、特に夜間の外出を避け、3つの「密」を避けることが感染拡大防止のキーワードです。

「密閉：密閉空間で換気が悪い」
「密接：近距離での会話や発声がある」
「密着：手の届く距離に多くの人がある」

志村けんさんが亡くなり、有名人だけでなく、若い世代の死亡者も相次いでいます。亡くなった人たちの叫びは**「あなたは大丈夫でも、次はあなたの家族、あなたの仲間が命を落とすかもしれません」**でしょう。ヨーロッパでは医療崩壊が起こり、まさに国家的危機、国難、戦争と言ってもいい状況です。医療機器、医療施設が足りず、医療従事者の感染者も増え続け、医師不足から医療崩壊になれば、命に関わる重症者に対する治療手段がなくなり、命の線引きをせざるを得なくなります。最重症のあなたが集中治療を願っても、生存の可能性が高い別な患者への治療が優先されるのです。言葉は適切ではないかもしれませんが、見殺しにされるのです。そんな恐ろしい世界を阻止してCOVID-19に打ち勝つためには、国と全ての国民が一丸となって、それぞれの立場で行うべき感染防止対策をしっかりと行うということに尽きるのです。

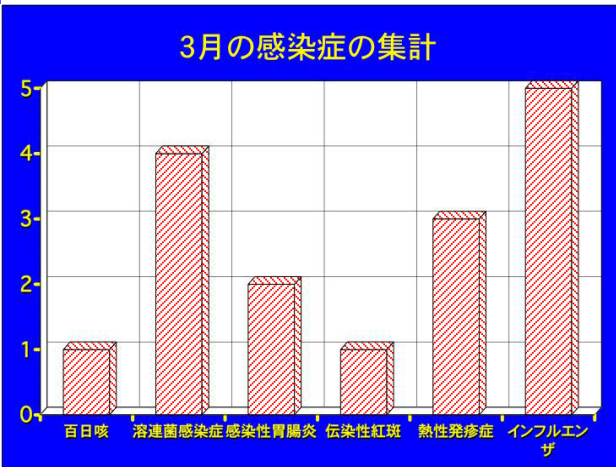


STOP COVID-19 : STAY AT HOME
NOT GETTING INFECTED : 感染しないこと
NOT INFECTING OTHERS : 他人に感染を広げないこと
力を合わせて、乗り切りましょう！！



今後の拡大防止を決意の現れとして、Facebook用のフレームを作成しました。オリジナルは希望のピンクですが、志村けんさんの喪に服するため黒にしました。

最後にYouTubeアニメ「**コロナウイルスとは何か & あなたは何をすべきか**」(QR)を紹介します。とてもわかりやすい動画です。より理解を深めるために、是非ご覧ください。



先月特に流行している感染症はありません。全ての感染症は減っています。珍しく百日咳の患者さんがいました。でも子どもではなく、患者さんのお父さんです。内科受診していたにも関わらず1か月以上咳が止まらずひどいということで受診しました。血液検査の結果を元に診断して、やっと症状が落ち着いて来ました。感染症に関しては内科の先生より我々小児科医の方が適切な対応が取れるという証です。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は 800 人を越えるお母さんが登録し利用しています。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。下の QR コードから是非登録をお願いします。

その他の情報発信として Facebook ページ、YouTube にも取り組んでいます。最新情報は FB をどうぞ。Mail News が、かなり戻ってきます。届かない場合は kodomo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews

Facebook

編集後記

3か月連続でコロナウイルス感染症を取り上げました。世界はパンデミック、日本は何とか持ちこたえています。少しずつほころびが見えてきました。いつ感染爆発=オーバーシュートが起きてても不思議ではありません。子どもは軽症であることは事実ですが、ある割合で重症化することもわかって来ました。記事を読んで、今何をすべきかを周り人にも伝えてください。命を守るということが試されている時です。



新型コロナウイルス感染症に関する一般電話相談窓口 (コールセンター)
 ☎ 022-211-3883 022-211-2882 受付時間 24 時間